


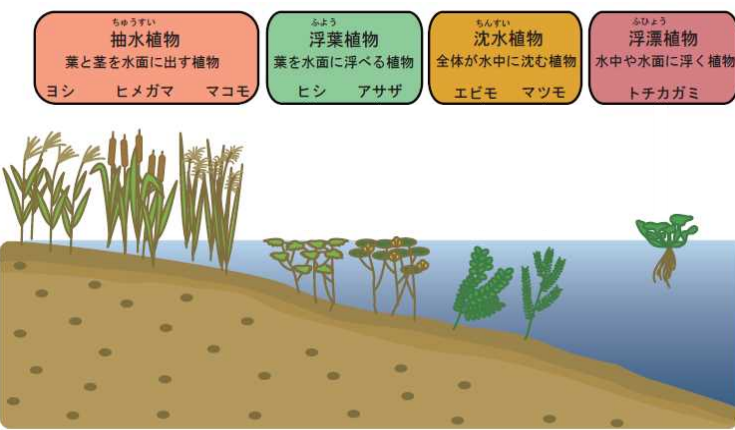
おもな 植物

潤沼にすむ

希少な植物たち | 左側のものほど絶滅の恐れが高い 茨城県版レッドデータブック 2012 による
★絶滅危惧ⅠA類 > ☆絶滅危惧ⅠB類 > ●絶滅危惧Ⅱ類 > ○準絶滅危惧

水生植物は魚の産卵場所や野鳥のすみかになったり、小さな魚やエビなどにとっては大きな魚から身を守る隠れ場所になったりします。また水生植物は、様々な動物にすみかやエサ提供し、生態系を多様化します。

 汽水湿地に生える植物



*潤沼では、浮漂植物はほとんどみられません。

抽水植物 根は水底の土壌中にあり、葉や茎の一部または大部分が空気中に伸びている植物。



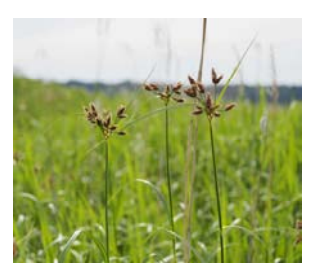
ヨシ 【イネ科】
高さ 2-3m。潤沼でよく見られる抽水植物。茎は中空。よしずくに利用される。



ヒメガマ 【ガマ科】
高さ 1-2m。茶色い棒状の穂をつける。熟すと穂が破れ針の形をした種子が飛び出す。



マコモ 【イネ科】
高さ 1-2m。水面から幅の広い葉を伸ばす。根元にできる肥大した新芽のマコモダケは食用とされる。



ウキヤガラ 【カヤツリグサ科】
高さは 1.5m を越える。花茎の上に、3-8 個の花をつける。枯れた茎は軽く、水に浮く。茎の断面は三角形である。



フトイ 【カヤツリグサ科】
高さは 2m 近くになる個体もある。花茎の基部には鞘があり、先端は少しだけ葉の形になるが、小さくて目立たない。



 **アイアシ** ☆絶IB 【イネ科】
高さ 80-160cm。ヨシに似ている。初夏に太く節ばった穂をつける。



クサヨシ 【イネ科】
高さ 80-150cm。ヨシに似ているが、小穂の構造などが異なる。穂は初夏に付き、真っすぐ立つ。



 **オオクグ** ☆絶IB 【カヤツリグサ科】
高さ 40-70cm。地中の根茎は長く伸び、葉は茎より長く、幅が 5mm-1cm 弱でやや堅めである。淡緑色の葉を数枚つける。



カサスゲ 【カヤツリグサ科】
高さは 1m 程。根は水中の泥に伸び、太い地下茎を横にはわせて大群落を作る。葉は細長く、やや立ち気味に伸びる。



ミズアオイ ○準絶 【ミズアオイ科】
高さは最大 1m。葉の形は葵に似ている。7月から10月に青紫色の花が咲く。環境の悪化により減少している。

湿生植物

水辺や湿原など、湿潤な所に生育する植物



ジョウロウスゲ ○準絶

【カヤツリグサ科】

高さ 40-70cm。上部に 4-6 個密集した丸くて大きな穂があり、熟すと種子をたくさんつける。



汽シオクグ ●絶Ⅱ

【カヤツリグサ科】

環境によって高さが変わり、砂浜の様な場所では 20cm 程度しか伸びず、干潟の奥の方などでは 50cm を越えるものもある。



オギ

【イネ科】

高さ 1-2.5m ほど。ススキに似ているが、湿地に生えるところと、株をつくらぬところが違う。



サワオグルマ ●絶Ⅱ

【キク科】

高さ 50-80cm。黄色の舌状花と筒状花で構成される。3-4cm 径の花を数個から 30 個程度つける。



タコノアシ ○準絶

【タコノアシ科】

高さ数十 cm。9 月頃小さい花を多数開く。花を上から見ると、吸盤のついた蛸の足を下から見たのに似ている。



ウスゲチョウジタデ ○準絶

【アカバナ科】

高さ 30-70 cm。茎と葉に細毛が生え、茎はあまり紅色を帯びない。

草原植物

主にイネ科植物や低木



チガヤ

【イネ科】

高さ 30-50cm ほど。地上に出ているのは、花茎以外ではほとんど葉だけである。



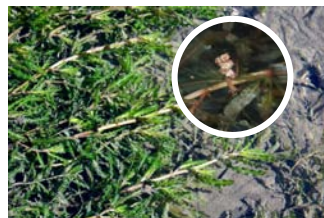
ノイバラ

【バラ科】

高さ 2m ほど。奇数羽状複葉で、小葉数は 7-9、長さは 10cm ほど。小葉はだ円形で鋸歯がある。

沈水植物

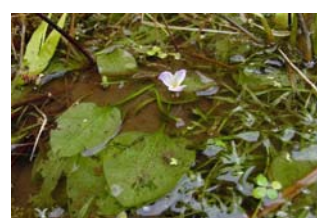
からだ全体が、水中にある植物



エビモ

【ヒルムシロ科】

全長 3m ほど。エビがいるようなところに生える。楕円形のねじれた葉をもつ。



ミズオオバコ ○準絶

【トチカガミ科】

葉の大きさは 5-40cm と環境によって大きく変わり、水深が深いと大型化する傾向がある。

浮葉植物

葉を水面に浮かべる植物



ヒシ

【ホウライシダ科】

葉はひし形で、水面に放射状に広がる。種子には、2つのトゲがある。



ミズワラビ

【ホウライシダ科】

シダとしては珍しく水中、あるいは湿地に生える。除草剤のために激減している。

写真の一部は森本 泰弘氏のご協力をいただきました。

生息するために必要な環境

酒沼の植物は、これまでの調査で 398 種が確認されています。昭和 40 年代までは酒沼は水生植物の宝庫であり、酒沼沿岸にヨシ、マコモなどの水生植物が群生していました。しかし、湿地の干拓やコンクリート護岸工事などによりこうした群生地が減少し、ミズアオイ、ミズワラビ、タコノアシなどの植物が絶滅の危機に瀕しています。